

生産堆肥の地域内流通による耕畜連携の推進

(佐賀県：堆肥料利活用実証プロジェクト)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○	○			

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- 所在地：佐賀県域
- 県内家畜飼養頭数（R3.2時点）：
乳用牛2,110頭、肉用牛52,600頭、豚82,900頭、
採卵鶏319千羽、肉用鶏3,751千羽
- 県内家畜排せつ物発生量：約8,248,000トン／年
- 事務局：佐賀県農林水産部畜産課
- HP等：（県庁HP） <https://www.pref.saga.lg.jp/>



堆肥の出来具合をチェック

<取組について>

○ 概要

- 佐賀県では、令和元年度から、畜産関係団体が一体となって、さが畜産のロールモデルとなる畜産農家と産地の創出を目指すための課題解決に取り組む「さが畜産GO×2プロジェクト」を展開。
- その中の重点プロジェクトの一つとして、令和3年度から、耕畜連携を進める堆肥の利活用方法の調査や堆肥の広域流通促進システムづくりを考える「堆肥料利活用実証プロジェクト（FUNBAL（ふんばる）プロ）」に取り組んでいる。

○ 成果

- 三神農業改良普及センター（令和4年度からは農業振興センター）管内では、畜産担当者と露地野菜担当者で堆肥の生産及び需要の情報を共有し、コネギ農家で展示圃を設置して堆肥施用による効果検証に取り組んだ。
- その結果、対照区と比較して収量がアップするとともに、土壤の物理性の改善が見られた。
- 同時並行で、「畜産マップ」や「堆肥判定表」を作成してセンター内で情報共有を図り、令和3年度は合計4件のマッチングを成立させた。
- 他地域でも、大豆での展示圃実証やアンケート調査の実施等、更なる堆肥の利活用に係る活動が実を結び始めている。

FUNBAL（ふんばる）プロジェクトの取組強化に向けて

～畜産サイドの課題を解決しつつ、さが園芸888運動の展開を後押し！～

R1～2

R3

R4～：耕種農家と畜産農家の連携を深化

「堆肥料利活用に係る意見交換会」の開催

堆肥料利活用実証プロジェクト
（ふんばるプロ）開始

耕種農家のニーズに合った良質堆肥づくり

- ◇ICTを活用した良質堆肥生産技術の開発 <畜試>
- ◇良質堆肥コンクールの復活 <GOプロ>
- ◇耕畜連携の実証 <GOプロ>
- ◇共同堆肥センターの整備推進 <クラスター事業>
- ◇ペレット化の推進 <クラスター事業>



広域流通システム化

- ◆広域流通に向けた検討会の開催 <GOプロ>
- ◆園芸産地でのストック場整備の推進 <園芸>

ニーズを把握する仕組みづくりを構築

【目指すべき姿】
良質堆肥の生産・利用の拡大
規模拡大による畜産産出額の増大
園芸産出額の向上

☆国の「みどりの食料システム戦略」（令和3年5月策定）において、堆肥の高品質化、ペレット化、堆肥を用いた新たな肥料の生産、広域流通の推進による循環利用システムの構築などに向けて取り組むことが明記された。